

「家庭の食卓トレンド調査 2019」結果の報告

—「タッカルビ」「アヒージョ」「汁なし担担麺」… 話題のメニューを食卓で試す意欲はあるものの、食材選びは便利さ優先—

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：譲原正昭 本社：東京都港区）は、2019年11月に、首都圏在住の主婦（20～70代の既婚女性）およびシングル女性（20～30代の未婚女性）を対象に、「家庭の食卓トレンド調査 2019」を実施いたしました。本調査は、食卓の変化の兆しをとらえるため、《新しい味編》《野菜編》《魚・肉編》の領域について、網羅的に調査したものです。その結果、下記のような傾向が明らかになりました。本リリースではその一部をご紹介します。

(<https://www.jmar.biz/report2/家庭の食卓トレンド調査2019/?tab=freereport>)

Summary

◆16年→19年、食用経験が増加「タッカルビ」「アヒージョ」「アクアパツツア」。

「タッカルビ」が1.5割→3割強と20ポイント弱増加。「アヒージョ」「アクアパツツア」も10ポイント以上増加。「コブサラダ」8ポイント、「ガッパオ」「汁なし担担麺」約7ポイント増加。

◆16年→19年、家庭で増加「タッカルビ」「アヒージョ」「スパゲティボロネーゼ」。

「タッカルビ」は9ポイント増え1割超、「汁なし担担麺」も1.5割の注目メニュー。「アヒージョ」は7ポイント増加して2.5割と今後の有望メニュー。「スパゲッティボロネーゼ」「キーマカレー」は半数前後、07年→19年で20ポイント以上増加して家庭のお馴染みメニューに。

◆10年→19年、肉好きは大増加。食べる機会を増やしたい意識が拡大中。

10年→19年で肉類好きな人は5割弱→6.5割と18ポイント増加。20代・30代主婦とシングル女性は約8割。「肉はできるだけ食べる機会を増やす」は毎回増加し、07年→19年で17ポイント増。

◆07年→19年、注目野菜「はくさい」「ブロッコリー」「ミニトマト」「えのきだけ」。

「はくさい」は便利という意識が高く、常備、レパートリーを増やしたい、最近よく利用が約10ポイント増加。「ブロッコリー」「ミニトマト」は、身体にいい意識が日々高く更に増加、便利・常備が増え、「ミニトマト」は子供に食べさせたい意識も拡大。「えのきだけ」は常備が10ポイント増加。

◆鍋・刺身と、“切り身”の塩焼き・照り焼き・煮魚で魚を食卓に。

10年→19年、「鍋料理」をもっと食卓に出したい意識が8ポイント増加、「切り身の塩焼き」「エビ・イカ・カキフライ等」「刺身」「切り身の煮魚」も5ポイント以上増加。

【調査概要】

- ・調査対象： 首都圏の20～70代主婦（既婚女性）および20～30代シングル女性（未婚女性）
- ・調査方法： 日本能率協会総合研究所「モニタリサーチ・システム」利用による郵送調査
- ・有効回収数：1,304人（発送数1,800人・有効回収率72.4%）
- ・調査実施日：2019年11月5日(火)～17日(日)

※母集団人口の地域構成比・地域ごとの年代構成比に基づきウエイトバック集計を行いました。

《本件についてのお問い合わせ先》

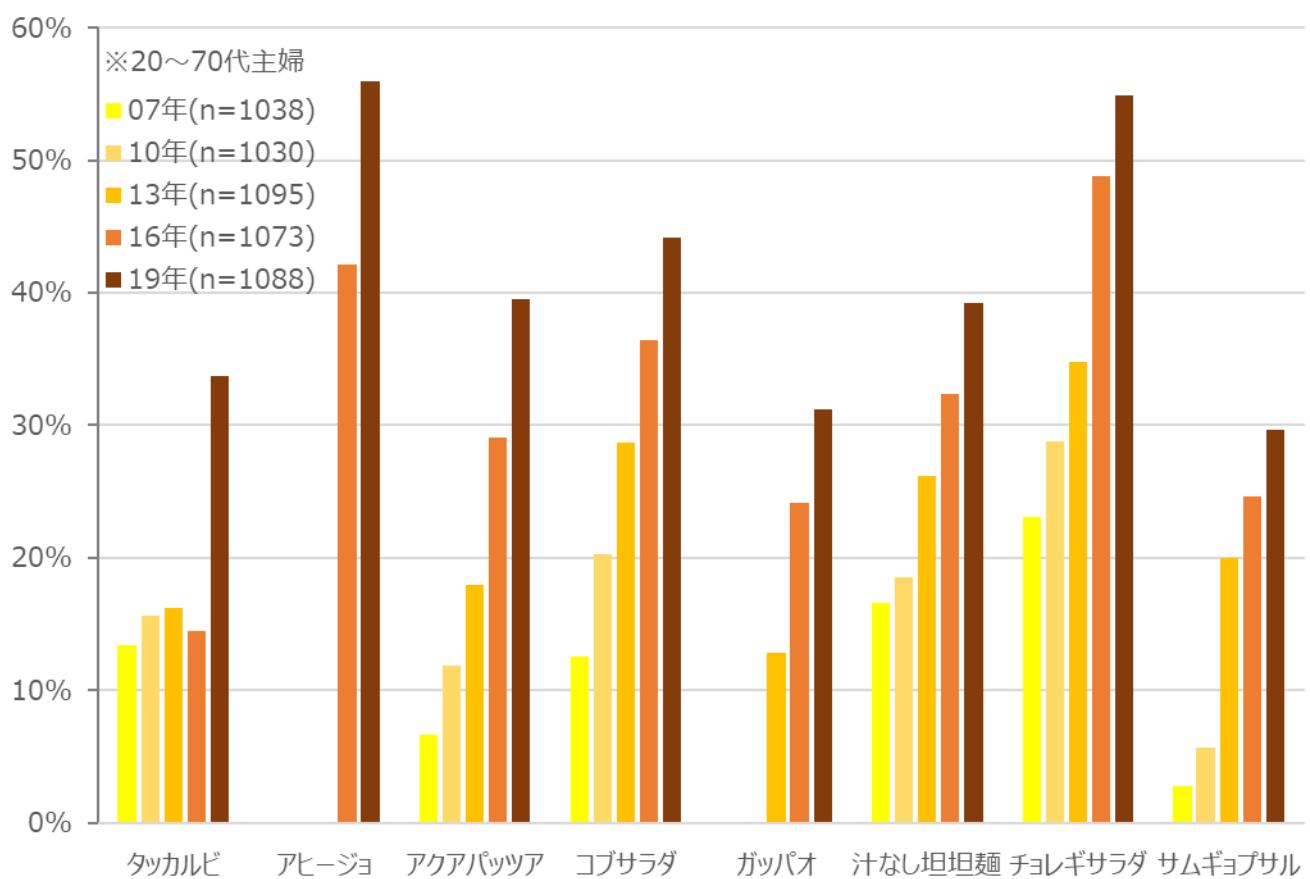
株式会社 日本能率協会総合研究所 経営・マーケティング研究部 担当：土井
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22
 TEL:03-3578-7607 FAX:03-3578-7614 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

Point!：食用経験が増加「タッカルビ」「アヒージョ」「アクアパツツア」。

- ◆16年→19年で食用経験が最も増加したのは「タッカルビ」で、1.5割→倍の3割強と20ポイント弱増加。「チョレギサラダ」「サムギヨプサル」等コリア系メニューの増加が目立つ。
- ◆「アヒージョ」「アクアパツツア」といった洋風メニューも10ポイント以上、「コブサラダ」も8ポイント増加した。
- ◆外食で人気のタイ料理「ガッパオ」、四川料理「汁なし担担麺」も約7ポイント増加した。

図表1 食用経験が増加したメニュー 増加ベスト8

「Q.次にあげるメニューについて、あなたが食べたことがあるものは？」
世界各国やご当地のメニュー156の選択肢を提示(複数回答)
※16年→19年で増加したメニューを増加幅の多い順にピックアップ

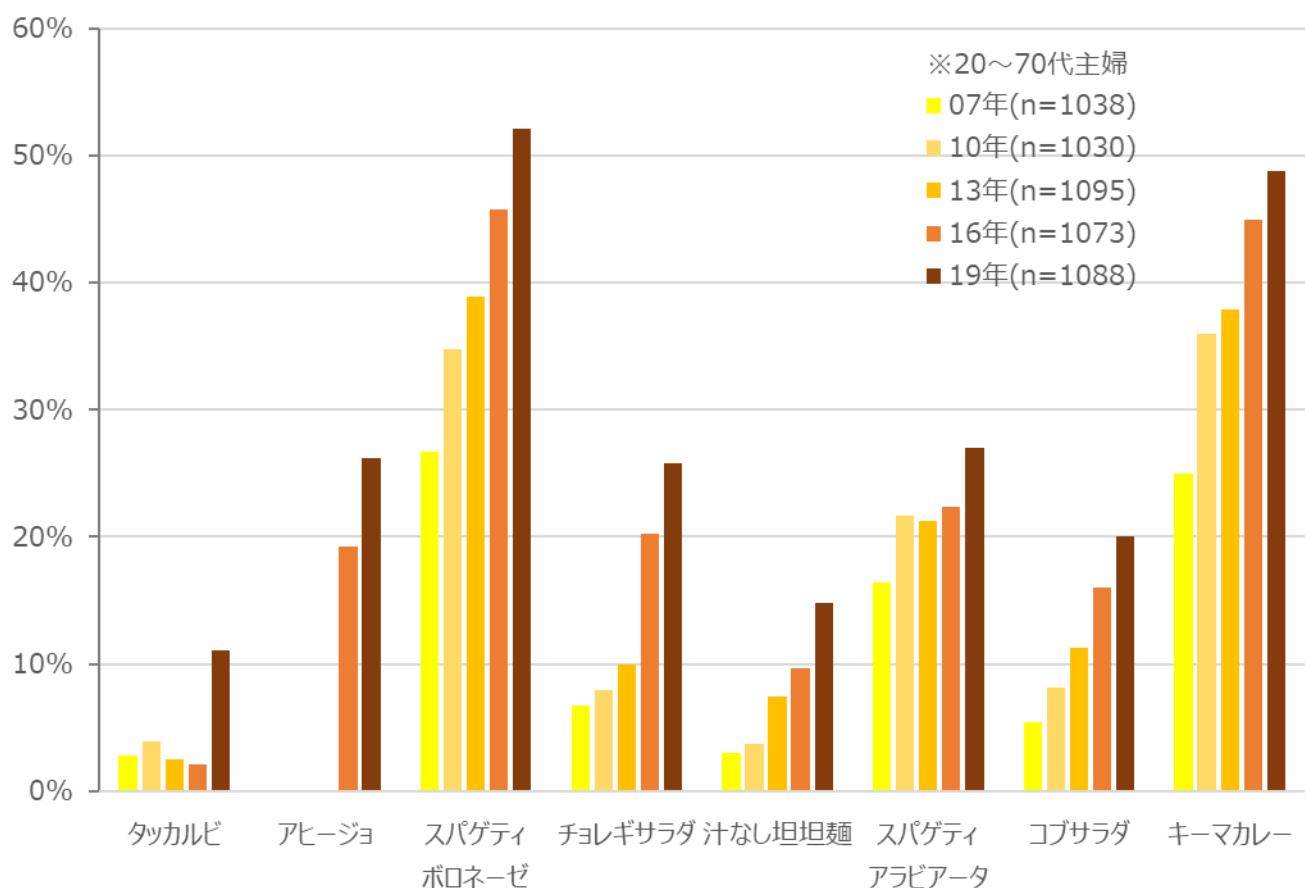


Point!：家庭で増加「タッカルビ」「アヒージョ」「スパゲティボロネーゼ」。

- ◆16年→19年で「タッカルビ」は9ポイント増え1割超、「汁なし担担麺」も1.5割、家庭ではまだ少ないが注目メニュー。
- ◆16年→19年で「アヒージョ」は7ポイント増加して2.5割に。「スパゲッティアラビアータ」「チョレギサラダ」「コブサラダ」も増加が続き2割台と、今後の有望メニュー。
- ◆「スパゲッティボロネーゼ」「キーマカレー」は半数前後と、07年→19年で20ポイント以上増加して、家庭のお馴染みメニューに。

図表2 家庭での食用経験が増加したメニュー 増加ベスト8

「Q.次にあげるメニューについて、食べたことがあるもののうち、あなたの家庭で食べたことがあるものは？」
世界各国やご当地のメニュー156の選択肢を提示(複数回答)
※16年→19年で増加したメニューを増加幅の多い順にピックアップ



Point! : 肉好きは大増加。食べる機会を増やしたい意識が拡大中。

- ◆ 10年→19年で肉類が好きな人は5割弱→6.5割と18ポイント増加。20代・30代主婦とシングル女性は約8割が肉好き。
- ◆ 「肉はできるだけ食べる機会を増やす」意識は毎回増加し、07年→19年で17ポイント増。70代主婦で52%と際立って高い。
- ◆ 「肉はあまり食べないようにしている」意識は減少を続け、07年→19年で23ポイント減。どの年代でも1割未満と、“肉”への抵抗感は希薄になった。

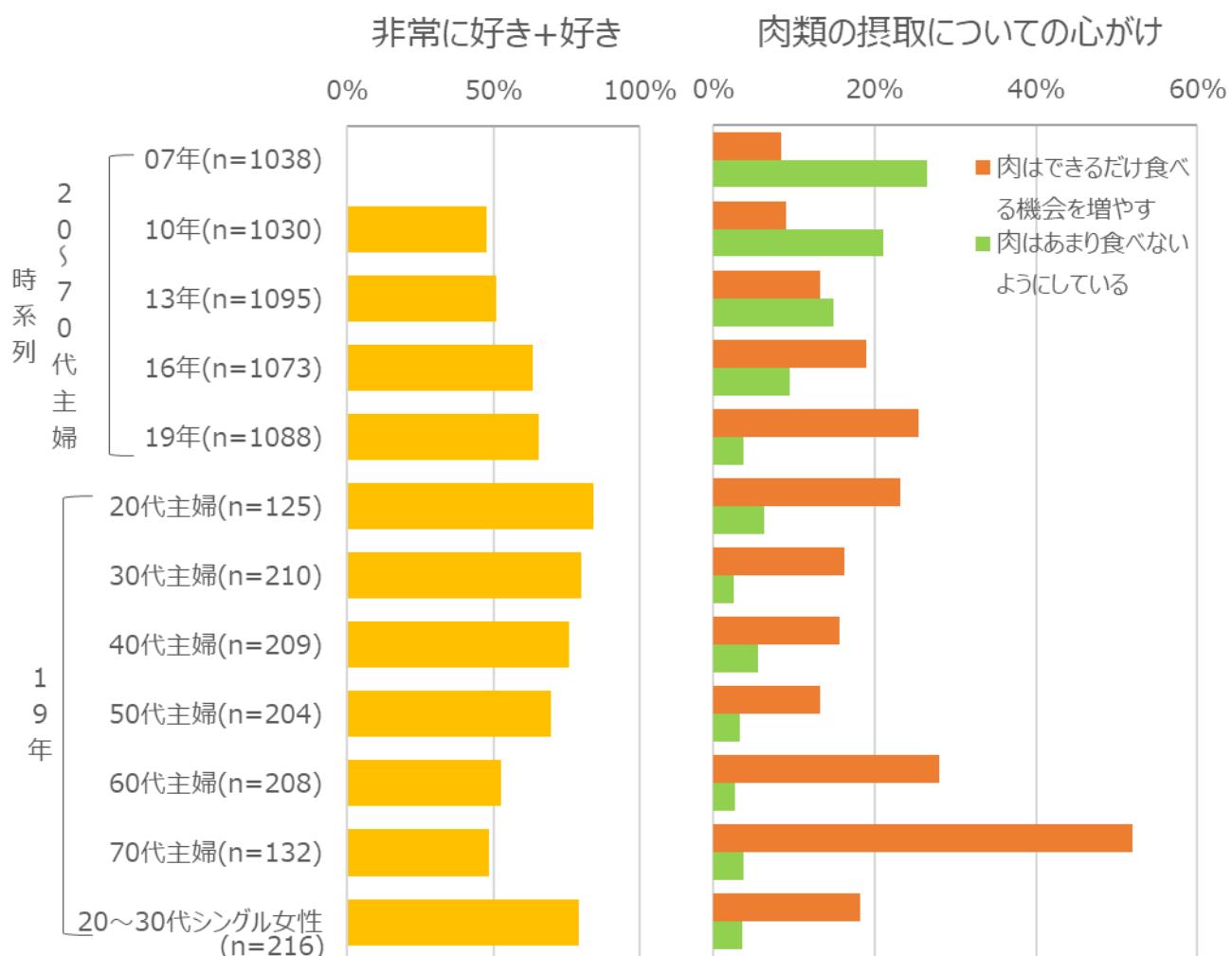
図表3 肉類に関する意識

左：「Q.あなたご自身は、肉類は好きですか。」

「非常に好き」～「非常に嫌い」と7段階の選択肢を提示(単数回答)

右：「Q.次のうち、あなたと家族の肉類の摂取について心がけていることは？」

15の選択肢を提示(複数回答)

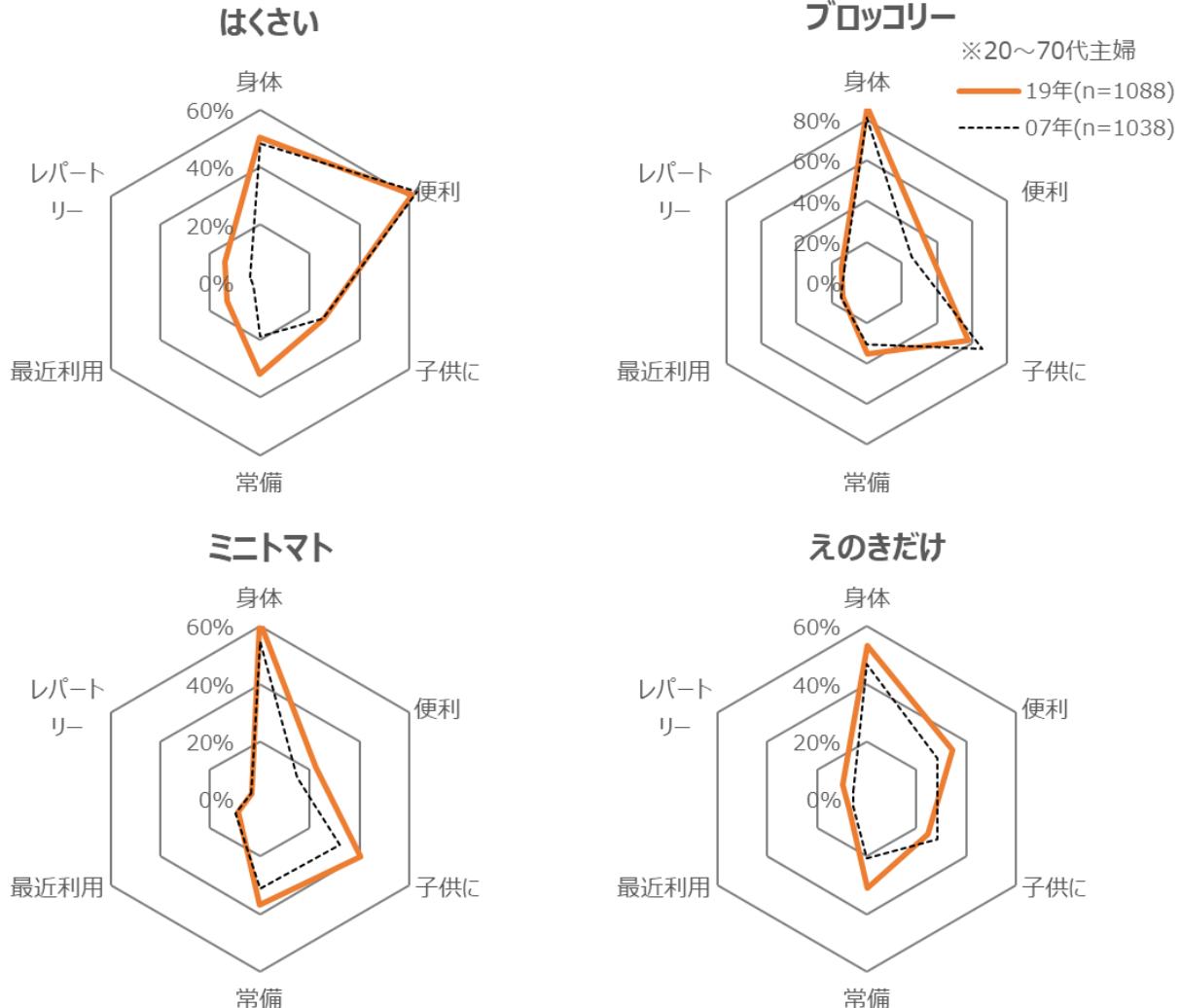


Point! : 注目野菜「はくさい」「ブロッコリー」「ミニトマト」「えのきだけ」。

- ◆07年→19年、「はくさい」は便利という意識が高く、常備、レパートリーを増やしたい、最近よく利用という意識が約10ポイント増加。
- ◆「ブロッコリー」「ミニトマト」は、身体にいいという意識が元々高く更に増加、便利・常備の意識も増え、「ミニトマト」は子供に食べさせたい意識も拡大。
- ◆「えのきだけ」はいつも買っておくという常備の意識が10ポイント増加、身体にいい、便利も拡大。

図表4 定番野菜の使い方

身体：「Q.身体にいいと思う野菜は？」**便利**：「Q.いろいろな食べ方ができるので便利だと思う野菜は？」**子供に**：「Q.なるべく子供に食べさせたいと思う野菜は？」**常備**：「Q.お宅でいつも買っておく野菜は？」**最近利用**：「Q.最近よく利用するようになった野菜は？」**レパートリー**：「Q.レパートリーを増やして、もっと利用したいと思っている野菜は？」各58の選択肢を提示(複数回答)
※6設問中3設問以上で、07年→19年に5ポイント以上増加した野菜をピックアップ



Point!：鍋・刺身と、“切り身”の塩焼き・照り焼き・煮魚で魚を食卓に。

- ◆10年→19年、「鍋料理」をもっと食卓に出したい意識が8ポイント増加、「切り身の塩焼き」「エビ・イカ・カキフライ等」「刺身」「切り身の煮魚」も5ポイント以上増加。
- ◆「切り身の煮魚」「刺身」は4人に1人以上と、特に意欲が高い。
- ◆「天ぷら」「エビ・イカ・カキフライ等」「切り身魚のフライ」の揚げ物メニューは、もっと食卓に出したい気持ちが増えているものの、作るのが面倒だと思う気持ちの方が大きく上回る。

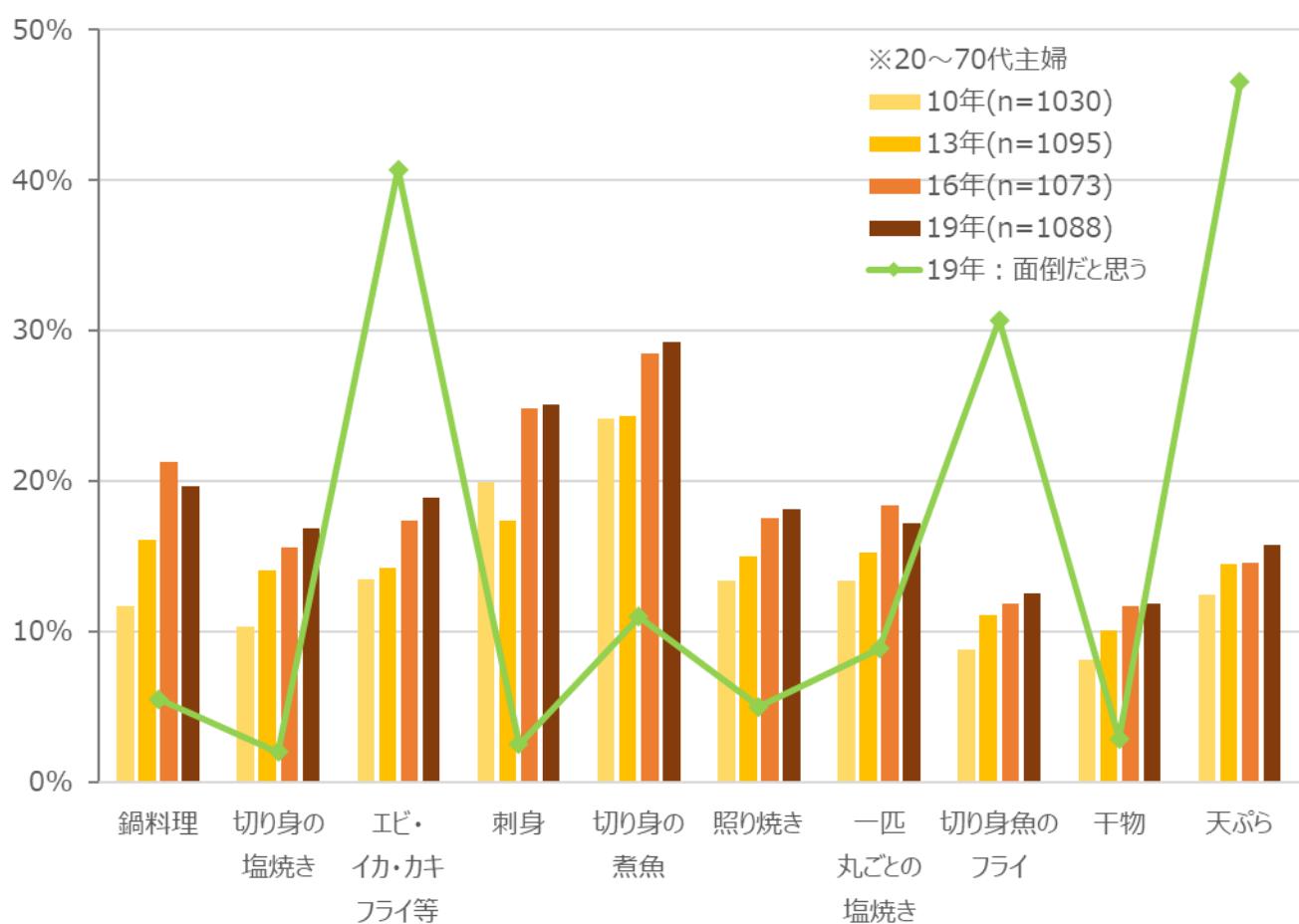
図表5 もっと食卓に出したい魚介類メニュー

「Q.もっと食卓に出したいと思っている魚介類の食べ方は？」

「Q.作るのが面倒だと思う魚介類の食べ方は？」

29の選択肢を提示(複数回答)

※10年→19年で増加したメニューを増加幅の多い順にピックアップ



「家庭の食卓トレンド調査 2019」は、首都圏在住の主婦（20～70代の既婚女性）およびシングル女性（20～30代の未婚女性）を対象に、食卓の変化の兆しを時系列でとらえる総合的な調査です。本リリースではその一部をご紹介します。

- ① 《野菜編》野菜の消費意識・実態についての最新トレンドは?
定番野菜 58品目の使い方とイメージ、新顔野菜 86品目の浸透度（認知・購入経験）、
冷凍野菜・カット野菜・加工野菜の利用拡大の実態、野菜の購買行動・不足感と意識…等
- ② 《魚・肉編》“魚”離れ&“肉”食化の詳細は?
魚介類の78品目の購入実態、食べ方別の使い方とイメージ、
魚介類の調理の実態と意識、水産加工品の利用、
肉類27品目の使い方、食肉加工食品の利用、魚・肉の購買行動・過不足感と意識…等
- ③ 《新しい味編》世界各国&ご当地の味の家庭の食卓への定着度を検証!!
洋風・中華系・韓国系・東南アジア系・ラテンアメリカ系メニュー、ご当地メニュー、
洋風・中華系・韓国系・エスニック系調味料・和風郷土調味料・スパイス・海外本格食材、
目新しい調味料の購買行動・情報源、調味用食材、乳製品・チルド定番食材…等
- ④ 《まとめ編》食卓トレンドを、様々な角度から多面的に検証!!
《野菜編》《魚・肉編》《新しい味編》の総括・まとめ

「家庭の食卓トレンド調査」は、07年・10年・13年・16年に実施しており、本調査はその継続調査です。
(<https://www.jmar.biz/report2/家庭の食卓トレンド調査2019/?tab=freereport>)

本調査は、メニュー・食品・調味料からみた生活者データベースです。今回はその中から、「食用経験が増加したメニュー」「家庭での食用経験が増加したメニュー」「肉類に関する意識」「定番野菜の使い方」「もっと食卓に出したい魚介類メニュー」に焦点を当てて、結果を報告しております。

【調査購入のご案内】

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業がご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

① 調査のアウトプット：

《野菜編》《魚・肉編》《新しい味編》各編毎に

- (1) 調査報告書：A4判・55～65ページ・2020年1月～2月発行
- (2) 集計結果数表：A4判・715～863ページ・2020年1月発行
- (3) 集計データ（CD-ROM）：クロス集計、ローデータ、他

《まとめ編》：A4判・19ページ・2020年2月発行

② 購入費用：定価 各編 350,000円～450,000円(税別)

MDBメンバー価格 各編 300,000円～400,000円(税別)

※《まとめ編》120,000円(税別)、《まとめ編》のみの購入はできません。

※本調査の成果物の著作権は（株）日本能率協会総合研究所が保有します。

※弊社は、本調査にご参加・購入いただいた企業（法人・個人）以外には、成果物を提供いたしません。ただし、本調査を告知するための限定的な利用、及び発刊から一定期間経過後はこの限りではありません。

※本調査の成果物のご利用はご参加・購入いただいた企業（法人・個人）の内部でのご利用のみに限らせていただきます。

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 経営・マーケティング研究部 担当：土井

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22

TEL:03-3578-7607 FAX:03-3578-7614 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。